



土木學會々長
工學博士 大河戸宗治氏

皇紀二千五百九十七年度の土木學會は新會長として東京帝國大學工學部教授工學博士大河戸宗治氏を選舉した。大河戸博士は多年鐵道省にあつて東京附近の各改良工事に幾多の新進軸を立てられ、國鐵工事の設計施工に合理的な進歩と刺戟を與へられた點は最も大なる功績と見られる、大河戸博士が先年鐵道省工務局長を退いて、東京帝大教授になられ、世人は一寸と驚いた様であつたが、實際に於て其は最も適任であつたのである。博士の教授ふりや學生の評判などは如何なるものである

か知らないが、學識と経験と人格とに於て東京帝大は良き教授を與へられたのである。然し教授としての日はまだ浅いのであるが、生きた技術と生きた社會の認識に於て今後何物かを印象せらるゝ事であらう。

土木學會も今日では三十餘の分科委員會を設けて多方面の調査研究や促進を圖つてゐるから數年前の學會とは大に趣をしてゐる。此意味に於て學者であり經驗家である大河戸博士の會長就任は最も適任である。